

# 十字路口

自由化度が高い環太平洋経済連携協定（TPP）に加盟するのは難しいはずなのに、なぜ中国は申請したのか。

まず、加盟できると踏んでいる可能性がある。厳密に基準を適用すれば、中国が加盟することはかなり難しいが、条項に記されている例外規定や国別に対応を決める付属書を活用して交渉すれば、不可能ではない。実際、マレーシアや来年議長国になるシンガポールなど、中国の加盟申請を歓迎している国もある。

次に、中国は加盟できなくても困るわけではない。加盟

## TPPの意義 問い直す契機

を申請しただけで、台湾の加盟は政治的に難しくなり、中国加盟より前に米国を復帰させる道を閉ざすことができず。また、加盟交渉が長引けば、TPP内で、参加を歓迎しているアジアの国と消極的な米国寄りの国との分断が広がる。困るのはTPPの方だ。

一方、思いのほか中国が譲歩し、厳しい基準をある程度受け入れ、台湾との同時加盟すら容認するかもしれない。しかし、加盟後の運用で中国がきちんとルールを守るとは限らない。また、加盟が認められれば、中国の存在感は圧倒的になる。中国に続いて、中国に近い他のアジアの国々も加盟申請してくるだろう。TPPのルールが中国の意向

で変わり、高い自由化度が失われるかもしれない。

米国の復帰を促すというのも現実的な選択肢ではない。

米国にその気はなく、TPPの中にも、中国との関係悪化の危険を言いつつ、米国に復帰してもらいたいと思わないメンバーがいるはずだ。

英国の加盟を機に、TPPの意義を問い直し、環太平洋の枠を超えたハイレベルな自由貿易を目指す集まりにしてはどうか。TPPが中国包囲網になるといふ疑いが消えれば、自由化度が高いTPPに加盟しようという中国の熱も冷めてくるかもしれない。

（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

研究主幹 鈴木 明彦